

NID News

Latest News
Nagaoka Institute of Design

January 2013 Vol. **013**

information

公立大学
法人化に
向けて

卒業生
の仕事

フォトグラファー 中田洋介

第3回 クラサン杯 最終順位 見事2位!

インターンシップ in 上海



フォトグラファー 中田 洋介

卒業生
の仕事

株式会社けんと放送 (FM KENTO) のフォトグラファーとして活躍する中田洋介さん。
FM KENTO が発行するフリーペーパー「CUT IN」や「CUT IN Campus」の撮影の全てを担当。
撮影する人物は年間 1,200 人を超え、“短い時間でその人が一番キレイに、そしてカッコよく見える写真を撮る”ことを目標としている。

Q：フォトグラファーを 目指した理由

長岡造形大学の図書館で森山大道さんの写真集を見た瞬間、稲妻が落ちたような衝撃があり「写真やらかなくちゃ」と思ったのがきっかけです。

高校生のころも好きで撮っていましたが、記憶をつなぐための延長でしかありませんでした。

今思えば、高校生の頃に膨大に撮っていたのも、現在の仕事に役立っているのだと思います。

Q：NID で学んだこと

「分からないことを分からないままにしないこと」これは今でも心に強く残っています。

分からないことを放っておいてもプロジェクトは何も進みません。

特に写真は「知らなければ撮れない」とさえ思っています。

分からないことがあれば必ず調べたり聞くようにしています。

- | | |
|---|----------------------|
| 1 | 1. 君のいた風景 (2011) |
| 2 | 2. 記憶の記録 (2012) |
| 3 | 3. 混ざりあい溶けていく (2010) |



今号の表紙は
中田洋介さんに
学生を撮影して
もらいました。

コンセプト：
「透明感と繊細さ」



Q：FM KENTO の魅力

自社媒体を持っていることで撮影対象が限定されずに、様々なものを撮影することができるようです。「ずっと色々なものを撮影してられるよ。」
 写真を撮ることが大好きな自分にとっては夢のような言葉でした。その一言で入社を決めました。

中田 洋介 (ナカダ ヨウスケ)
 視覚デザイン学科
 写真・映像コース 2009年卒業
 株式会社けんと放送 (FM KENTO)
 フォトグラファー



Q：仕事の 楽しいこと・つらいこと

仕事は楽しいことだらけです。毎日、刺激的でたくさんの「ヒト」や「モノ」と出会えるところは、本当に素晴らしい経験で幸せです。制作物についての結果や成果について、クライアントや購買者の方々からの反応が薄いときはつらいですね。

Q：これからの夢

今以上のスピードで写真を撮っていき、関わった多くの人がみんな幸せになるのが僕の夢です。



4. CUT IN Campus (2012.12)
5. CUT IN (2012.12)
6. LAFORET 会報誌 (2012. 秋)
7. LAFORET 会報誌 (2012. 春)
8. LAFORET 会報誌 (2012. 冬)
9. いえラビ
10. docomo (2011)
11. docomo (2012)

第3回

全国マンガ系スクール参加型
才能発見&発掘プロジェクト

クラサン杯

最終順位 見事2位!

視覚デザイン学科4年生の斉藤さんが
クラサン杯(主催:小学館)に応募しました。
週間順位で見事1位!最終順位では惜しくも2位でしたが
編集部の皆様からたくさんの方の支持をいただきました。



斉藤 望 (サイトウ ノゾミ)
視覚デザイン学科
マンガコース4年生



クラサン杯とは…

少年サンデー発のWEBコミックサイト
“クラブサンデー”上で行われる、全国マン
ガ系スクール参加型コンテストです。
4月末から1か月の間、毎週作品が公開さ
れ、作品を読み終わった読者が、マンガの
最後にある読者アンケートから評価をし、
読者アンケートと編集部の審査を経て
「No.1 マンガ学生」を決定します。

Q1 第3回クラサン杯へ
応募したきっかけ

→先生の勧めで応募しました。
応募した作品は授業課題で、大学生向けの
内容だったので少年マンガのコンペに応募
することは不安でしたが、元々少年マンガ
を描きたいと思っていたので応募にふみき
りました。

Q2 これまでに制作した
マンガは何作品?

→作品として形になっているものは授業課
題で描いた3作品ほどです。
マンガを描き始めたのは中学生ぐらいで、
ノートや紙やりにガリガリ描いて遊んでま
した。
いつも絵を描いていた子どもでした。

Q3 マンガのストーリーについて

→自分の経験や人から聞いた話などを参考にし
ながら作ることが多いです。
ファンタジーはゲームなどを参考にしています。
どこで考えるかは決めていなくて、唐突に思い
ついたりします。
友人と話していても急に考え込んで無言になっ
たりします。

Q4 キャラクターの設定で
心がけていることは?

→魅力のあるキャラクター作りというものが
苦手なので、現実にいる人物をモデルに
しています。
でもモデルを決めずにダラダラ描いたもの
が意外と気に入ったりして、そこから後付
けでキャラ立てしたりするのも楽しいです。

Q5 NIDの授業について

→美術を基礎から学べるので、人や植物の
描き方、表現方法など、自分一人では手が出
せなかった領域に触れることができ、マンガ
に活かせる部分がたくさん身に付きました。
なにより、多くの人と話すことができたの
も、良い経験になりました。

Q6 将来の目標

→マンガで食べていけるようになりたいです。
マンガでお金ができたら、家族や恩師や友達と
焼肉に行って、自分が全部お金を払って、カッ
コつけたいです!



視覚デザインアトリエ



インターシップ in 上海

建築・環境デザイン学科4年生の増田くんが上海にある『万谷建築設計』さんのインターシップ(通称:“サマプロ”)に採用されました。

全国から応募が殺到する中、学部生で見事選考に勝ち残った増田くん。1ヶ月に渡るインターシップ。他の4名は全て大学院生といった中、無事課題をクリアできたでしょうか？

増田 周太

(マスダ シュウタ)

建築・環境デザイン学科

建築デザインコース

4年生



“サマプロ”スケジュール

1

週目

上海市内フィールドワーク・分析

上海建築レクチャー、上海の建築・都市をリサーチ及び分析

2

週目

半日設計課題・実務インターン

分析を元に実際の敷地にプロジェクトを計画

3

週目

課題提案・実務インターン

課題設計、万谷建築設計での実務プロジェクトに参加

4

週目

課題制作・課題発表

最終日にプレゼンテーションを行い、その後意見交換会

1番印象的だったプログラムは？

1週間続いた半日設計課題です。商業施設という今まで扱ったことのないテーマを建築にすることは大変でした。しかしながら、回を重ねるごとにサマプロ参加者それぞれの個性が設計に表れてくる様はととても刺激的で、楽しい体験でした。

“サマプロ”に参加して良かった点

万谷建築設計の所員さんをはじめ、上海での様々な方との出会いです。海外で働く方々と話すことは勉強になっただけでなく、自分のモチベーションを上げることにもつながりました。また参加者が5人という少人数であるため、連帯感も高まり、すぐに全員と仲良くなれました。NIDに入学する前から、日本以外の国で仕事をするには憧れがあったので、そんな私にとって、サマプロは良いチャンスでした。海外に興味を持っている方はぜひ挑戦してみてください。きっと価値観を変えてくれますよ。

“サマプロ”を終えて

サマプロは毎日内容の濃いプログラムが組み込まれており、建築の知識のみならず『海外で働くことの魅力』を感じることができました。

最終日、大勢の所員の方が私のプレゼンテーションを高く評価してくれたことが非常にうれしく、また大きな自信につながりました。副賞でいただいた本は大切にします。

1ヶ月間の上海での生活

国際都市である上海は、中国人以上に他の国の人との交流も多くありました。宿泊先がユースホステルだったため、多国籍の人が集まる環境でしか学べないこと(外国語の重要性や価値観など)を身をもって経験できました。

上海での食事は色々な物を食べさせてもらいましたが、何と言っても一番印象に残っているのは打ち上げで食べたザリガニです。蒸しエビのような食感で、見た目からは想像がつかないスパイシーな味がしました。

中国では夜9時を過ぎるとほとんどのお店が閉まってしまっているので、必然的に早寝早起きになり、日本にいる時以上に健康的な生活が送れていたように感じます。

万谷建築設計ホームページ: <http://k-m-studio.com/>



中国の商業建築についてのレクチャー。初めて触れることが多く新鮮です。



古い町並みを利用して生まれた商業空間「田子坊」。上海のお気に入りのスポットです。

最終課題で提案した商業施設のCGパース。所員の方の指導の元、4週間でここまで描けるようになりました。



サマプロの総仕上げ。緊張の最終プレゼンテーション。



ホステルで知り合った友達とビリヤードで息抜き。



TOPICS

2012 10月 AACA 国際コンペティション 2012 芦原太郎奨励賞受賞

第1回国際コンペティション2012「風景の Re-DESIGN・Re-Make・Re-Structure 一わくわくする風景を創る」(社団法人日本建築美術工芸協会主催)で、上野裕治教授(建築・環境デザイン学科)と学生のプロジェクト、「比礼カカシ・プロジェクト」が芦原太郎奨励賞(優秀作品)を受賞しました。また、「越後みしま竹あかり街道」プロジェクトも佳作を受賞しています。



2012 10月 新潟文化祭 2012 アートシンポジウム開催

新潟県が主催する新潟文化祭2012のプログラム「アートシンポジウム~アートでつながる。アートで地域を元気にする~」が本学を会場に開催されました。第1部はアーティストの日比野克彦さんを講師に招いた基調講演。第2部には、「越後みしま竹あかり街道」をはじめとした各アートイベントの紹介が行われ、第3部では上野教授をコーディネーターとして、日比野さんをまじえたパネルディスカッションが行われました。

2012 11月 長岡市 市展 各賞受賞

第51回長岡市美術展覧会(市展)で本学の学生が各賞を受賞しました。
●工芸部門
市長賞 丸山愛香(美術・工芸学科卒)
奨励賞 川合里奈(大学院1年)
奨励賞 金嶋寛高(美術・工芸学科4年)
アオーレ長岡オープン記念賞 高田恵介(美術工芸学科4年)
●彫刻部門
奨励賞 阿部啓輔(美術・工芸学科4年)
奨励賞 井上瑞恵(美術・工芸学科4年)
新潟日報美術振興賞 不破妙子(大学院2年)

2012 8月 東京装画賞展 2012 竹尾賞受賞

第1回東京装画賞展2012学生部門(日本図書設計家協会主催)で、松永紗知さん(視覚デザイン学科4年)の作品が竹尾賞を受賞しました。また、橋本璃奈さん(同学科4年)と伏見彩奈さん(同学科4年)も入選を果たしました。



2012 10月 大学祭開催

第19回長岡造形大学大学祭が2日間の日程で開催されました。イラストレーターのカサヤナガトさんをお招きしたゲスト講演会をはじめ、学生たちによる模擬店や市民の方々にも参加いただいた作品展示など多くのプログラムが催され、今年もキャンパスが大いに賑わいました。



教員採用試験 合格

平成25年度教員採用試験で、本学教職課程1期生の学生が合格を果たしました。
新潟県公立教員採用試験 合格(中学校美術教員)
富山県公立教員採用試験 合格(中学校美術教員)

2012 10月 長岡デザインフェア 2012 開催

長岡デザインフェア2012が今年も本学を会場に開催され、来場した多くの市民の方々に賑わいました。学内ではさまざまなワークショップなどのプログラムが催され、また第14回亀倉雄策賞を受賞した澁谷克彦さんやJAGDA新人賞受賞者3名によるトークイベントも併催され、デザインの魅力を存分に見て・聞いて・体感できる2日間となりました。



2012 11月 5大学合同写真展開催

写真系コースを持つ、5大学による合同写真展「〇展(まるてん)」が本学を会場に開催されました。東京工芸大学と本学の合同写真展としてスタートしこの写真展は、年々参加大学も増え、今年は5大学での合同写真展となりました。
[参加大学]
女子美術大学・多摩美術大学・中国伝媒大学・東京工芸大学・長岡造形大学



2012 9月-10月 座・椅子展開催

建築・環境デザイン学科1年生が制作した椅子の数々を一堂に展示する「座・椅子展」が金沢21世紀美術館(石川県金沢市)とアオーレ長岡(新潟県長岡市)の2会場で開催されました。金沢21世紀美術館会場では、美術・工芸学科テキスタイルコースの学生作品も同時に展示されました。



ひ れい 比礼カカシ・ プロジェクト について

コラム

農村景観・環境のすばらしさをアピール

農村と都市の交流活性化

「比礼カカシ・プロジェクト」は2009年に始まり3シーズンを経過した。このプロジェクトは、長岡市栃尾地区にある比礼集落の農家が棚田に数本のカカシを立てたのをきっかけに、この集落に居住している私が田んぼの所有者の了解を得て、学生とともにカカシの本数を増やしていったことから始まった。このカカシ・プロジェクトによって、栃尾地域の農村景観・環境のすばらしさをアピールするとともに、農村と都市の交流活性化を進展させてゆくことを期待している。



犬を追いかけるオヤジ



ドルフィン



生まれたての子馬



白熊の親子

ところでカカシって
いったい何なんだろう？

ところでカカシっていったい何なんだろう？カカシは人型で立っていて、さも農作業をやっているかのように見せかけ、鳥を追い払うのが目的であると一般的には思われている。しかし本当にそうだろうか？ カカシとスズメ、カカシとカラスなど鳥や動物たちと仲の良い友達として童話にもたくさん出てくるし、宮崎駿監督の「ハウルの動く城」、海外作品では「オズの魔法使い」で人々の友達として登場する。私もカカシを立てて毎日見てみたが、カラスの子が飛び立つ練習台にはなっている、鳥を追い払う役目があるとはあまり思えない。農家の人達も、昔から本当にカカシに鳥を追い払う効果があるとはほとんど思っていないようだ。ならばカカシの役目はいったい何なのか？ 田んぼの農作業では、田植え、稲刈り以外の除草や水の管理作業は孤独な作業だ。そんなときにカカシが立っていると一瞬でもホッとするような気がする。無言の話し相手というか、要は、カカシは「農作業の友」なのだと思ふ。そうであるならば、カカシはもっと自由であっていい、楽しいものであっていい。というわけで、比礼カカシ・プロジェクトでは楽しいカカシを制作してきている。テーマは「人が動物を抽象化する」ということで、できればそこに何かのストーリー性を感じさせることができれば申し分ない。たとえば犬を追いかけるオヤジ、田んぼを覗く生まれたての子馬、などなど。これからもきっといろんなカカシ達が勢揃いすることになるだろう。



上野 裕治 (ウエノ ユウジ)

専門分野：
ランドスケープ計画・設計、
植物生育環境、緑地環境

公立大学法人化に向けて

Information

公設民営方式の学校法人長岡造形大学は 2014年4月での公立大学への移行を目指しています。

本学の公立大学法人化について検討していた有識者による公立大学法人化検討委員会から、公立大学法人への移行が望ましいとの報告書が長岡市に対し答申され、長岡市では設置準備室を開設し、公立大学法人化に向け本格的に準備を進めています。

本学と同じ公設民営方式の大学は全国に7校存在していましたが、2004年に創設された「公立大学法人制度」により既に4校が公立大学に移行しています。

公立大学に移行しますと、「公立としての知名度と信頼性の向上」「地方交付税活用による授業料負担の軽減」「産官学による地域連携教育・研究の強化」等が期待されます。(移行後は、それ以前に入学した在学学生にも残りの在学期間は、新授業料が適応されます)

公立大学になっても「造形を通して真の人間の豊かさを探求する人材を養成する」とした建学の理念は不変です。芸術（美術）の教育研究を担う公立大学は県立、市立を合わせ全国に8校ほど存在しますが、その中において長岡造形大学は、唯一デザインの実践的教育研究に特化した公立大学としての存在を示すこととなります。

19年の歴史しかない若い大学ながら、実社会の第一線で活躍するデザイナーを多数輩出して参りました。公立大学移行後も入学以前に造形教育を受けていなくとも、デザインへの強い志があれば受け入れ育て上げることを可能にする本学特有のカリキュラムは踏襲します。更に、卒業生のデザイン領域以外での活躍も期待し、社会人基礎力養成科目の充実も図る予定です。

これからも将来にわたり地域・社会に必要とされるかけがえのない大学となるよう教育・研究・地域貢献において努力して参ります。更なる皆様のご支援をお願い申し上げます。

(長岡造形大学 学長 和田 裕)

PICK UP:学費

公立化後 約 590,000円(予定)



2012年度実績 1,376,000円

※授業料及び施設・設備費を合わせた金額です。

※この他に入学金(入学時のみ)、保護者会費、校友会費、実習費がかかります。

公立大学法人化の進捗

